

# 国語科学習指導案

日 時 平成21年9月11日(金) 5校時  
場 所 2年 組教室  
授業学級 盛岡市立仙北中学校 2年 組  
(男子 名 女子 名 計 名)  
授 業 者 教諭 三浦 正子

1 単元名 豊かな言葉 (教材名 短歌を味わう)

2 単元について

(1) 教材について

本教材は、生徒が言葉の豊かさに触れ、自らの表現に生かすことをねらいとした「読むこと」の領域の学習である。

小学校6年生で文語調の短歌・俳句について音読を中心とする学習を行い、中学校1年生では詩の学習を通して表現技法や感動の中心をとらえることを学んだ。この教材で短歌についての理解を深め、語句の効果的な使い方や響きの美しさ、表現の美しさについて考え、3年生でのより濃縮された表現の深さを味わう俳句学習へとつながる。

この文章は、近代歌人3人の代表的な短歌が一首ずつ紹介され、短歌の約束事やそれぞれの短歌の読み方、語句の効果的な使い方、歌人の心について、歌人でもある作者が解説をしている。最後には作者自身の短歌に対する思いが述べられ、中学生に短歌に親しんで欲しいという願いが込められている。そこで、この教材の学習では、鑑賞文をもとに表現の工夫や短歌に込めた作者の気持ちを想像させ、短歌の鑑賞の仕方を学ばせたい。その後、教科書の巻末にある「短歌十二首」を発展として扱い、声に出して読んだり、語句や表現から大意や作者の置かれてある状況を推測させ、イメージを広がりをとらえさせ、表現の奥深さを味わわせたい。

(2) 生徒について

NRTによると、学力は全国平均より高いが、情景や心情を想像力を働かせて読み取ったり発表することには消極的な生徒が多い。、だからこそ短い韻文でしかもどの生徒も同じスタートラインに立てる短歌の学習で「読むこと」の学習が深められると考える。

授業で発問や課題にスムーズに取り組みさせるために、「学習のきまり十箇条」にかかわって、「5私語をしないで話をよく聞く」と、個人やグループでの発言や発表を学級全体につなげるために「8大きい声ではっきり発言する」に重点を置いている。

本時の授業前学習では、短歌についての関心を高めるために短歌の視写を行わせる。

(3) 指導について

①「教材とのかかわらせ方」について

3年間で一度だけの近代・現代短歌の学習なので、生徒の抵抗を少なくするために、本文の叙述を参考にし、さらに生徒の想像を付け加えて情景や心情を把握させる。近代とはいえ生徒にとっては遙か昔のことであり、鑑賞の基盤となる生徒の日常体験が多いといえないので、文語表現や作者についての補足説明等を加え、理解の手助けとしたい。また、「短歌を味わう」が教材名であるので解釈を一つに限定せず緩やかにとらえさせ、個人のとらえ方を大事にさせたい。

②「友達とのかかわらせ方」について

短歌を自分なりにとらえた後グループで交流し合い、個人では不十分なところを補わせたり、修正したりして、個人の考えを確かなものにする。また、個人の発表ではあってもグループを通すことで自信を持って発表できるようにする。

3 単元の指導目標

(1) 伝統的な文学形式である短歌に親しみ、作品を味わおうとする態度を養う。【関心意欲態度】

(2) 言葉の使い方や表現の工夫について考え、短歌に込められた作者の気持ちを想像して読む。  
【読むこと】

(3) 短歌のリズムや言葉の響きに注意して音読する。【読むこと】

4 指導計画

短歌を味わう…………… 5 時間

- ①本文を音読し、短歌の特徴や形式・用語について理解し、短歌 3 首を読み慣れる。(1 時間)
- ②北原白秋と正岡子規の短歌について本文をもとに情景や心情・表現の工夫をとらえる。  
(1 時間) (本時)
- ③石川啄木の短歌について心情と表現の工夫をとらえるとともに、鑑賞文の書き方を理解する。  
(1 時間)
- ④「短歌十二首」の短歌を音読し、好きな作品を選んで鑑賞文を書く。(1 時間)
- ⑤同じ短歌を選んだ生徒同士で交流し各自が補充・修正した後、班や学級で発表しあう。(1 時間)

5 本時の指導

(1) 本時の目標

短歌の内容や表現の仕方についての感想を交流することを通して、短歌の情景と感動の中心・表現の工夫をとらえる。(読むこと)

(2) 本時の評価規準と具体的評価規準

	A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する生徒への手だて
読むこと	詠まれている 情景や心情に自分の感性や想像を重ねてとらえ、表現の特徴にも触れながら感想をもっている。	詠まれている情景や心情・表現の工夫をとらえて感想をもっている。	情景や心情・表現の工夫のなかで実感できるものを選び、感想を持たせる。

(3) 本時の展開

段階	学 習 内 容	学 習 活 動	指導上の留意点
導入 5分	1 既習の振り返り  2 学習課題の設定	1 短歌とは詩の仲間(韻文)であり、作者が感動したことや新しく発見したことを言葉を選んで表現したものであることを確認する。  2 学習課題を確認し、これからの学習内容をとらえる。	1 ワークシートを前もって配布し、授業前学習でワークシートに丁寧に短歌を視写させる。  2 2 首を各自微音読したあと、一斉読をする。
視点に基づいて短歌をとらえよう。			
展開 40分	3 課題解決の見通し (1) 白秋の短歌について本文から読み取り、イメージを膨らませる。  (2) 子規の短歌について本文から読み取	3 (1) 北原白秋の短歌についての本文を音読し、どんな様子を詠んだのか(情景)や作者が心を動かされたこと(心情)を読み取り、発表する。 (個→全体) 情景(若草の～ふりかかる) 心情(色の対照～感傷を誘う) ・「色の対照の美しさ」をとらえる。 草わかばの緑と色鉛筆の赤 ・感動の中心をとらえる。 いとしい(小さいものを大切に思う) ・語句や表現から想像できることを発表し、イメージを膨らませる。 草わかば……春 草の上に散る赤い色に引きつけられよく見えるように寝そべったまま鉛筆を削り続けている。 (2) 正岡子規の短歌を全員で音読する。 ・文語についての説明を聞き、意味を理	3 情景と心情 について述べて部分にサイドラインを引くことを指示する。  ・発表後にワークシートに書き込ませる。  ・初句切れであることを説明する。(表現の工夫)  ・「いとしい」の意味でとらえさせる。 ・細かく見ているところや季節について考えて発表させる大きく外れていなければ、想像したことも良しとする。 一人の生徒の発表を全体のものにするように配慮する。 ・「けり」の働きについて説明する。

	り、イメージを膨らませる	<p>解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正岡子規の短歌についての本文を音読し、どんな様子を詠んだのか（情景）や作者が心を動かされたこと（心情）を読み取り、発表する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>情景（瓶に生けてある藤の花房がみじかかったので、畳の上に届かないで空中にその力を結び止めているよ）</li> <li>心情（とどかざりけり）</li> </ul> </li> <li>・「とどかざりけり」に込められた心情をとらえる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>たたみのほんの少し上でとどまっているのが力強く感じられて美しい。（筆者のとらえ方 ポジティブ）</li> <li>あと少しでとどかなくて残念だ。（あきらめ ネガティブ）</li> </ul> </li> <li>・語句や表現から想像できることを発表し、イメージを膨らませる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>季節 藤の花 初夏</li> <li>瓶の置かれてある場所</li> <li>作者が藤の花を見ている位置</li> <li>平仮名の多用</li> <li>字余り</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤の花はワークの写真で確認する。</li> <li>・筆者のとらえ方以外のとらえ方も認める。</li> <li>・藤の花は季語としては春であることも触れる。</li> <li>・作者が病床にあったことは教科書の説明で触れる。</li> <li>・字余りをここでは表現の工夫をとらえる。</li> </ul>
4	<p>課題の追求</p> <p>白秋と子規の短歌のどちらか一つについて、自分なりにミニ鑑賞文を書く。</p>	<p>4 白秋と子規の短歌のどちらか一方を選び、根拠を明らかにしてその短歌の良さをとらえる。</p> <p>（個→グループ→全体）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内で発表しあい、内容や書き方について交流する。</li> </ul>	<p>4 鑑賞文を書くドリルとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取りかかりの遅い生徒への手だて <ul style="list-style-type: none"> <li>理由の書き方を示す</li> <li>実感できるもの一つを選ばせて根拠とさせる。</li> </ul> </li> <li>・良さを認め合う。</li> <li>・他の人の発表を聞いて補充する。</li> </ul>
5	<p>課題のまとめ</p> <p>他の生徒の発表を聞き、自分の考えを練り直す。</p>	<p>5 各自の考えを学級全体で発表し合い、自分の考えを確かめたり、修正や補足をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短歌の読み味わうポイントをとらえる。</li> </ul>	<p>5 さらに修正や付け足しをさせて練らせる。</p> <p>◎（読むこと）</p> <p>短歌の情景や感動の中心</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の工夫をとらえたか。（ワークシート、発言）</li> <li>・読み味わうポイント <ul style="list-style-type: none"> <li>情景</li> <li>感動の中心</li> <li>表現の工夫</li> </ul> </li> </ul>
終末 5分	<p>6 学習の振り返り</p> <p>7 次時の予告</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りカードを記入する。</li> <li>・啄木の短歌の鑑賞と、鑑賞文の書き方を学習することを確認する。</li> </ul>	<p>発表を聞いた感想も書く。</p>

#### (4) 評価

短歌の内容や表現の仕方についての感想を交流することを通して、短歌の情景と感動の中心・表現の工夫をとらえたか。（読むこと）